

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

東京都立大森高等学校 全日制課程

1 組織

- (1) 都立大森高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 経営企画室長＝事務局長、副校長、総務主任、経営企画室主事 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主幹、総務主任、生活指導主任、進路指導主幹 計7名
- (4) 協議委員の構成
保護者代表1名、同窓会代表1名、近隣中学校長1名、地域住民代表1名、
地域関係諸機関代表2名、大田区教育委員会1名、旧PTA代表1名 計8名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会の開催日、内容、その他
 - 第1回 令和4年6月23日（木）
令和3年度の学校報告、学校経営計画の説明、本校の現状と課題等説明
 - 第2回 令和4年11月22日（火）
分掌報告、学校評価アンケートに関する提案、学校評価の内容
 - 第3回 令和5年3月15日（水）
年度総括、各分掌報告、学校評価アンケートに関する報告
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年11月22日（火）
評価アンケートの実施時期及び回収方法と集計分析、評価者への周知
 - 第2回 令和5年3月15日（水）
出席された委員には、資料をお渡しし、学校評価アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理について、後日、意見を集約。
当日欠席された委員については、後日資料をお渡しし意見を集約。

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
12月実施

	第1学年	第2学年	第3学年	合計	回収数	回収率
生徒	184	125	139	448	319	71.2%
保護者	184	125	139	448	122	27.2%
教職員				36	36	100.0%
学運協				8	8	100.0%

- (3) 主な評価項目
 - ①学校運営に関することについて
 - ②授業や学習活動について
 - ③生活指導に関することについて
 - ④進路指導等、日頃から重点を置き指導を行っていることについて
 - ⑤部活動・学校行事について
 - ⑥地域との連携について

⑦本校が重視すべき分野について（今後、期待されていること）

4 評価結果の概要

- （１）全体的に、肯定的な評価（１よく当てはまる ２やや当てはまる）が否定的な評価（３あまり当てはまらない ４全く当てはまらない）を上回っている。
- （２）いくつかの項目で、教職員と生徒・保護者の差異が見られるが、学校が一体となった取り組みが実践していくために、この差について認識をしつつ、縮めていく必要がある。
- （３）肯定的な評価の割合が６０パーセントを超えなかった項目が、生徒について２項目、保護者について８項目、教職員について４項目、学運協委員について２項目であった。
- （４）肯定的な評価の割合が６０パーセントを超えた項目は、全７０回答中４８回答であった。これは全体の６９％である。また、８０パーセントを超えた項目は、全７０回答中２２回答であった。これは全体の３１％である。これらの結果から、学校に対する評価はやや満足はしているが、十分に満足しているとは言えないことを示している。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- （１）学校運営
 - ・家庭や地域との連携に関しては、家庭・地域に向けての広報活動を組織的に行い、連携を更に強めていく。
 - ・働き方改革を更に推進し、組織的な取り組みにより業務の組織化や軽減に努める。
 - ・平成 28 年度から行っている自立支援チーム継続派遣校等の取り組みを含めて、学校生活の充実と転退学者の減少に継続して取り組む。
- （２）学習指導
 - ・コロナ禍における学習方法の多様化の深化と更なる研究を行う。
 - ・学習指導に関しては、生徒、教職員の評価と保護者の評価に差が見られる。基礎学力の定着に向けた取り組みを強化し、学習不安を解消できるようにする。
 - ・基礎学力から再度やり直しをしたいと考える生徒や、上級学校への進学を考える生徒など、学力の幅があるため、習熟度別など生徒の状況に応じた指導を行う。
- （３）生活指導
 - ・基本的な生活態度などの指導については、教職員に対して生徒・保護者の評価が低かった。これは、生徒の状況に応じたきめ細かな指導を生徒・保護者が望んでいることを示している。丁寧な説明のもと、指導を根気強く継続的に行っていく。
 - ・基本的な生活習慣については、生徒・保護者の評価が上がっており、指導方針が浸透していることを示している。今後も指導体制を維持し組織的な指導を行っていく。
- （４）進路指導
 - ・進路に関する意識や評価は、学年によって大きく異なる。入学時から進路実現に向けた取り組みを徹底させるため、「進路ノート」を活用したキャリア教育を更に推進し、全学年に進路意識の植え付けを充実させたい。
 - ・進路指導に対する保護者の評価が低いことから、適時の情報提供や情報共有を丁寧に行っていく。